

# 令和7年度第2回 三郷市在宅医療・介護連携推進協議会

## 急変時の対応

### 具体策の検討

1. 急変時の連携体制が十分であるか
2. 訪問・通所・短期入所を組み合わせる在宅療養を継続できる仕組みが構築されているか

# 『1. 急変時の連携体制が十分であるか』

## 目指すべき姿

医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療・介護の両方を必要とする高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。



地域において、本人の病状や希望する療養場所、延命措置に対する希望等、本人の意思を共有するための関係機関の連携体制の構築が課題である



本人の意思を関係者が共有できる仕組み・ルールを考える必要がある

※急変時とは、「在宅療養者が急激に状態悪化し、救急を要するような状態」を指す

# 『1. 急変時の連携体制が十分であるか』

## 急変時の場面分け

医療・介護サービスにつながっている在宅療養者

場面1

予測されている疾患での急変  
→看取り

主治医・訪問看護に連絡し  
対応の指示を仰ぐ

在宅関係者による対応

済

情報を把握し、緊急連絡先の説明

済

救急車要請前に在宅関係者への連絡できるよう調整

場面2

治療中以外の新たな疾患

救急要請

病院

在宅関係者と病院の双方向で情報が不足

課題

在宅・消防・病院との連携が不十分

連携不足からタイムリーな対応が困難

場面3

どうするか決まっていない

課題

ACPの普及啓発

記載項目の検討及び情報更新の必要性

# 『1. 急変時の連携体制が十分であるか』

## 現状の課題（1）

急変時を想定した本人の意思を尊重した記録等（ACP等）がない

## 令和7年度第1回協議会で賜ったご意見等

- 関係各所の専門職と連携し、対象者の意思を把握していきたい
  - 在宅医療・介護に関わる専門職へアンケートを実施する
  - アンケートを実施することで、ACPの啓発に繋がる
- 救急医療情報キットのあり方の検討が必要
- 救急隊がどのように本人の希望を確認しているか、情報共有の困りを共有する場があるとよい

# 『 1. 急変時の連携体制が十分であるか』

## 今後の取り組みについて①

救急隊が搬送時にどのような確認しているか、情報共有の困りを共有する機会をつくる

### 救急隊から

- ・ 救急搬送時の到着から搬送までの、本人（や家族）の意思確認の流れ
- ・ 実際に急変時の対応がうまくいかなかった事例や課題
- ・ 在宅医療・介護に関わる専門職との連携したいこと

### ご意見いただきたいこと

- ・ 急変時の連携体制構築のため、救急隊・病院と在宅医療・介護に関わる専門職で連携したいこと
- ・ 救急医療情報キット等の使い方、内容等 **【資料2】**

# 『 1. 急変時の連携体制が十分であるか』

## 今後の取り組み②

- ・ 在宅医療・介護に関わる専門職へアンケート調査・分析を行う
- ・ ACPの普及啓発  
→ 広報・啓発部会にて検討

ご意見いただきたいこと

アンケート調査の内容について【資料3】

## 『2. 訪問・通所・短期入所を組み合わせる在宅療養を継続できる仕組みが構築されている』

### 現状の課題

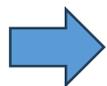
在宅医療・介護専門職の知識、説明能力、考え方の違いで在宅生活の方向性に違いがある

### 今後の取り組みについて①

市民が在宅療養のイメージを持てる状況をつくる

### 令和7年度第1回協議会で賜ったご意見等

- ・ポスターの設置、在宅介護の絵本及び動画の周知、市民向け講演会を開催→実施済
- ・人生会議の動画を作成（令和7年度）



広報・啓発部会で検討を行う

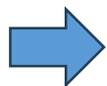
## 『2. 訪問・通所・短期入所を組み合わせて在宅療養を継続できる仕組みが構築されている』

### 今後の取り組みについて②

在宅医療・介護に関わる専門職が、各職種の専門性やサービスの特徴を知る機会をつくる

### 令和7年度第1回協議会で賜ったご意見等

- ・地域包括ケア病棟は病院がどの施設基準によって機能が若干変わる。市内の地域包括ケア病棟の認知度を高めるために、病院でできることがあるのではないか。
- ・ケアマネジャーは病院内の役割や流れを理解しきれていない。地域包括ケア病棟の使い方など理解し、苦手意識の改善やよりよい連携に繋げたい。
- ・人生ノートのようなものを活用し、入院前に食に対するこだわりや意思確認細々とした部分まで聞き取れるとよいと感じる。
- ・家族と本人の気持ち異なる時には、どのように関わればよいか悩むことがある。
- ・ケアマネジャーの知識不足は、リハビリ職の関わりが足りないのかと感じる。医療の部分についてリハビリ職が説明できればよいのではと感じた。リハビリで関わる中で、心を開き、重要な情報を持っている職員もいるため、関わる関係者で共有したい。



研修部会で部会で検討を行う